

(様式1) 平成29年度 山梨県立富士北稜高等学校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	個性及び能力の伸長に努め生徒一人一人の進路実現を図ると共に地域の発展に貢献できる人材を育成する。							
本年度の重点目標	1 基礎学力の定着及び思考力・判断力・表現力育成のための授業改善に努めるとともに、家庭学習習慣を確立させることを目指す。	A ほぼ達成できた。(8割以上)	評価 4 良くできている。 3 できている。 2 あまりできていない。 1 できていない。					
	2 地域への情報発信に努め、生徒が地域と関わる取り組みを積極的に進める。	B 概ね達成できた。(6割以上)						
	3 将来を展望したキャリア教育と進路指導を充実させる。	C 不十分である。(4割以上)						
	4 特別活動を充実させることで、豊かな人間性を育てる。	D 達成できなかつた。(4割以下)						
	5 全ての教育活動を通して、ルールを守り、人間として正しく生きようとする規範意識を育てる。							
	自己評価							
年度末評価(3月23日現在)								
番号	評価項目	具体的な方策	自己評価結果					
			達成度	成果と次年度への課題・改善策				
			1	生徒の基礎学力の定着及び思考力・判断力・表現力育成のための授業評価の実施と思考力・判断力・表現力などを育成する授業の実施 相互授業参観	・教員の授業力向上の取り組みの強化 ・基礎学力定着に向けた授業評価の実施と基礎学力試験実施 ・基礎学力定着に向けた授業の実施及び基礎学力試験実施 ・基礎学力定着に向けた授業の実施及び確認テストの実施 ・スマートテスト(国・数・英)の実施 ・家庭学習習慣の確立と積極的な評価 ・朝読書の実施	・公開授業 ・研究授業 ・授業評価アンケート ・研修会	A B	・基礎学力の測定方法を「スタディーサポート」から「基礎学力診断テスト」に変更した。 基礎学力の定着には、担当教科のみならず、年次や担任に一層の関与を促すことが求められる。 ・「自己表現力の向上」においては、その力を測定する方法や評価する方法を確立させた。 ・課題である「自己表現力の向上」にも取り組んだ。3月の生徒発表会では素晴らしいプレゼンがあった。自己表現力がついてきている生徒もいる。 ・家庭学習の習慣化については不十分である。
			2	地域や保護者への情報発信と生徒と地域との交流活動の促進	・学校ホームページの充実 ・学校便り・年次便りの発行	・ホームページアクセス状況 ・学校評価アンケート	A	・富士吉田市との「包括的連携に関する協定」を締結し、連携・協力を双方向で行うことになった。 ・「みんなの貯金箱財団」や「社会創発塾」と連携して、地域の課題解決に取り組んだ。 ・今年度も在宅訪問を実施し、高齢者とコミュニケーションを図った。また、ふじざくら支援学校と交流会を持った。 ・ホームページを通じて緊急連絡を行ったが、上手いだった。
			3	キャリア教育と進路指導の充実	・「産業社会と人間」及び「総合的な学習の時間」の充実 ・インターンシップの充実 ・企業・大学との連携 ・資格取得の増進	・学校評価アンケート	B	・1年次の職場見学や2年次のインターンシップは意識を高め、進路決定に役立っている。 ・「みんなの貯金箱財団」や「社会創発塾」と連携し、キャリア教育を充実させる体制が構築できた。 ・資格取得では、9冠(全商で9つの資格を取得)を達成した生徒がいるなど、成果が現れた。
			4	特別活動の活性化	・全員入部制(1年次生)の継続と2・3年次生への部活動継続の働きかけ ・生徒が主体となった部及び委員会の企画運営と具体的目標・活動計画の設定 ・文化部の活性化	・部活動調査(入部率等) ・目標達成度(活動成果)	B	・定期的に部員数の調査や活動状況を把握し適切な指導をしていく。 ・委員会は年間を通じて活動できる細案が必要である。 ・文化部の活動の成果をより多くの方に理解してもらえるように、さらに発表や展示の機会を増やしていく。
5	基本的生活習慣と規範意識の確立	・挨拶、服装、言葉遣い、清掃等の指導の徹底 ・生命や人権、社会的規範を尊重する態度の育成 ・規範意識を涵養する講演会等の開催	・挨拶運動 ・服装点検 ・清掃点検 ・学校評価アンケート ・生徒の諸活動状況 ・生徒感想文等 ・学校評価アンケート	A	・毎朝、多くの職員が校門で挨拶運動を行い、生徒を迎える。マナーアップ運動中は、生活委員会やPTA役員にも協力をいただき登校指導を実施した。多くの生徒が挨拶をしてくれると評価をいたたいた。 ・問題行動が前年に比べ減った。 ・講演会や年次集会を通して、生命や人権を尊重する態度を育成し、規範意識を高めることができた。			

留意点 (1) 重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2) 学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

山梨県立富士北稜高等学校校長 羽田 孝行